

平成29年度 作物技術普及情報 13号

1 水稻の生育状況

豊科定点圃場（稚苗5月16日植）では「コシヒカリ」は8月4日に出穂期となりました。平年より5日早く昨年より1日遅いです。

現地の「コシヒカリ」は7月末から8月6日頃に出穂期を迎えた圃場が多く、全般に、ほぼ昨年並に出穂しています。

現在、平坦地の早生種は登熟中期で、「コシヒカリ」は傾穂期です。

本年の確定値 水稻生育状況

	安曇野市豊科 水稻奨決圃（5月16日田植 稚苗） （標高：550m）							
	コシヒカリ				あきたこまち			
	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	幼穂 形成期	出穂期	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	幼穂 形成期	出穂期
本年	46	694	7月12日	8月4日	43	623	7月6日	7月26日
平年	49	648	7月16日	8月9日	50	544	7月6日	7月28日
平年比	94%	107%	4日早	5日早	86%	115%	同日	2日早
昨年	51	579	7月11日	8月3日	50	478	7月2日	7月25日
昨年比	90%	120%	1日遅	1日遅	86%	130%	4日遅	1日遅

※ 草丈、莖数は7月1日現在。

2 刈り取り開始予測（8月15日現在）について

向こう1ヶ月予想では、8月下旬まで気温は平年並～低いと予想されていますが、出穂期が早かったため刈り取り開始は「平年より早い」ことが予想されます。

このため、平坦地の早生品種は8月24日頃から、コシヒカリは8月末からの収穫を想定して、コンバインや乾燥施設の稼働準備をお願いします。

刈り取り開始予測を参考に、施設稼働計画や収穫計画にご活用いただき、急な高温条件に対応できるようにお願いします。

8月15日 現在の刈り取り開始～成熟期予測

5月15日植 (標高550m)		出穂期 (中苗:大町選抜から推定)			刈り取り開始			成熟期			
		本年	昨年	平年値	登熟期間の気温		昨年	登熟期間の気温		昨年	平年値
					平年並	平年より 2℃高		平年並	平年より 2℃高		
あきたこまち	稚苗	7月26日	7月25日	7月28日	8月30日	8月29日	8月29日	9月4日	9月3日	9月3日	9月9日
	中苗	7月21日	7月17日		8月24日	8月24日	8月21日	8月29日	8月29日	8月26日	
コシヒカリ	稚苗	8月4日	8月3日	8月9日	9月11日	9月7日	9月10日	9月16日	9月12日	9月15日	9月24日
	中苗	7月31日	7月28日		9月5日	9月2日	9月3日	9月10日	9月7日	9月8日	

注) 昨年度は、平28年 9月3日 の最終予測値、本年の稚苗あきたこまち、コシヒカリ の出穂期は実測値。

コシヒカリ 標高550m	苗質	気温	刈り始め予測日					
			田植え日					
			5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
稚苗	平年並		9月3日	9月5日	9月7日	9月11日	9月15日	9月19日
	2℃高温		8月31日	9月2日	9月4日	9月7日	9月11日	9月14日
中苗	平年並		8月28日	8月31日	9月2日	9月5日	9月9日	9月12日
	2℃高温		8月26日	8月28日	8月30日	9月2日	9月5日	9月8日

※他の標高、品種については、水稻刈り始め予測（平年並み版・高温版）をご覧ください

○ 風さやかな刈り取り開始予測について

出穂後の積算気温 1100℃(コシヒカリは1020℃)で成熟期を推定し、成熟期から5日前を刈り取り開始時期としています。

管内の風さやかは、概ね5月15日以降に移植されており、中苗植は8月3日頃、稚苗植は8月8日頃から出穂期を迎えています(出穂はコシヒカリより4日程度遅く、成熟期は7~10日程度遅れると思われます)。

出穂期が2~3日違うと刈り始め時期が5日位違ってきます。このため苗質、移植日、出穂期が刈り取りの判断に重要なので、圃場毎の確認をお願いします。

3 高温登熟障害対策について

8月下旬頃まで気温は平年並~低いと予想されておりますが、高温に転じた場合は高温登熟に対応した管理が必要です。

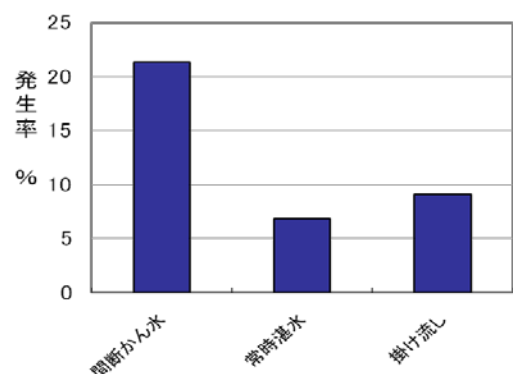
現在、松本管内の水稻は穂揃い期~登熟中期で、高温登熟による障害を受けやすい時期になっています。

対策ポイントは「出穂後3週間の湛水」と「早期落水の厳禁」です

① 【出穂後3週間の湛水】

高温登熟による白未熟米、胴割米の発生防止のため、出穂前後3週間は、圃場に水が入っている状態として、土壤水分を確実に保持し、根の老化防止と健全な登熟となるように、水管理の徹底をお願いします。

著しい高温が続く場合は、水利条件が可能ならば、水温が高くなった田面水の入れ替え(掛け流しや昼間入水等)もご検討ください。



水管理と白未熟の関係(2010年、農業試験場)
注) 品種あきたこまち。発生率は水口区、水尻区の平均。
湛水処理は出穂前後2週間の常時湛水、掛け流しは出穂後2週間の掛け流し。

② 「早期落水の厳禁」

8月下旬に収穫を迎える早生品種は、高温で乾きやすい気象条件下で収穫を迎えます。

収穫適期が早まることが予想されるため、早く落水して、土を固めたい（早期落水）・・・と思う場面があるかと思えます。

しかし、早期落水は胴割米・白未熟米の発生を助長する（特に登熟期間が高温・干ばつになる場合は多発する恐れがあります）ので、作業に支障のない範囲で落水は極力遅くし、作業優先の早期落水は避けるようお願いします。特に砂壤土は乾きすぎるので注意してください。

また台風等によるフェーン現象で異常高温・極端な乾燥条件になると、白未熟・胴割れ発生が助長されます。

フェーンの場合は落水中でも入水（走水）をお願いします。

4 いもち病、カメムシの発生状況について

○いもち病

県内では感染好適条件・準好適条件が頻発し、常発地では葉いもちの発生が見られています。これから8月末にかけて降雨が多い状況になると、穂いもちが発生する恐れがあり、油断は禁物です（平成23・25・26・27年がこのような年でした）。

8月～9月の降水量は平年並～多いと予想されていますので、引き続き発生状況にご注意ください。

○カメムシ類

前号でもお伝えしましたとおり、今年はカメムシの発生が平年より多い状況にあります。発生状況にご注意いただき、発生が多い場合は追加防除をお願いいたします。

5 大豆開花期の干ばつ対策について

現在までのところ適度な降雨に恵まれてますが、麦後大豆も干ばつに弱い開花期を迎えています。葉のしおれに注意し、今後干ばつの症状がみられる場合は、入水可能な圃場（用水が十分にある、茎疫病等の立枯れ性病害は発

生していない)では灌水をご検討ください。灌水にあたっては、昼間の暑い時期は避け、夕方以降に入水をお願いします。

また、急な雷雨やゲリラ豪雨により、圃場が滞水することも予想されます。排水対策はされていると思いますが、今一度排水路の点検をお願いします。